

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名	811A C/T	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.500	△RG	0.046	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

**テストボール：811C/T**

フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離  インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

番

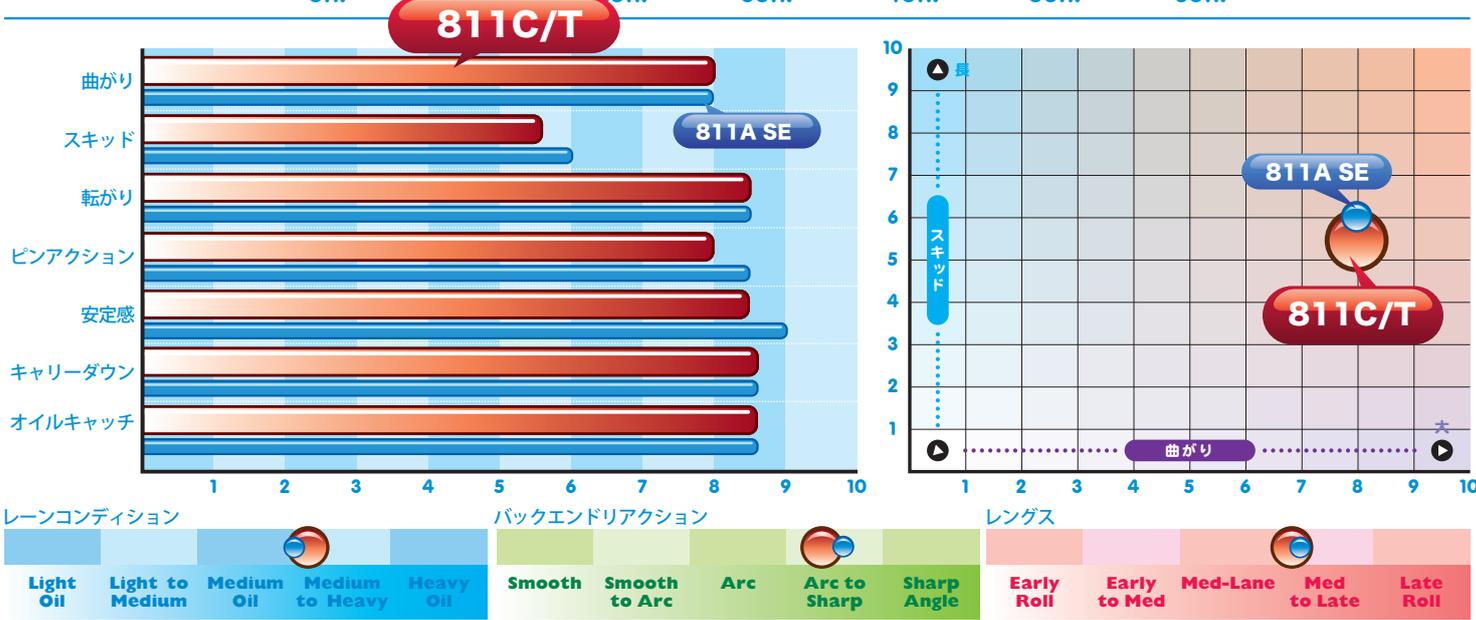
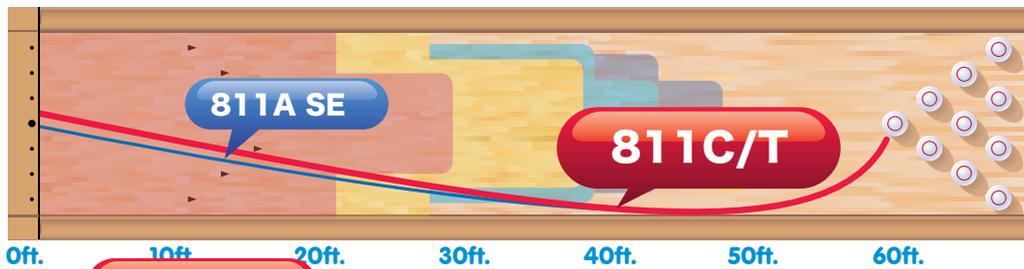
**比較対照ボール：811A SE**

フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離  インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

番



### ボールの評価

パフォーマンスを分かりやすく、画期的な方法で表記したナンバーシリーズ。各々には役割があり、末尾のローマ字はリアクション特性を表すものでした。今回トラック社は末尾に2つの表記を混合させることで二つの特性を併せ持つ性能の811C/Tを発表してきました。皆さんすでにご存じのとおり、「8」はカバーストックの強さ、Int Diff「0.011」、Cは(Control)を表し、Tは(Traction)を意味します。投球した感じでは「8」のカバー表記よりは手前のスキッド感が軽いと思いました。投げる前の先入観から「8」と「CとT」と考えると、手前からしっかりとしたキャッチ感が強く、ミッドエリアから扱い易い曲りと思っていましたが、実際はスキッド感があり、先での動きがかなり明確に見えました。もう少し分かりやすく表現すると、508Aの表面の光沢をやや消し、スキッド具合だけ811と同じぐらいに調節すると同じイメージで投げられるような感じも見受けられました。要するに508Aのキャッチを強くして、「A」の鋭さをやや落ち着かせる…。多分皆さん「投げてみたい性能」と想像できるはずです。

考察するに今回の811C/Tは「C」を前面に出していても「T」の表現はやや効果は薄いのではないかと思います。その表れとしてキャッチは感じるもの手前からのトラクションというよりは、スキッドを優先して感じるからです。私がCとT双方を感じるようにするのであれば、箱出しの加工より表面をやや曇らせ、スキッド調整をしなければならいでしょう。

今回の811C/TはCとTの組み合わせですが、ややスキッド重視の性能に仕上がっており、「キャッチ感は欲しいけど、手前から曲がるのはイヤ」とか「先で動くキャッチ系のボールが欲しい」という方にはこの811C/Tをおすすめします。

### 特記事項

**916AT(Aii Train)以来の2つのカテゴリーが共存する811C/T。Tというイメージよりは「8」の「C」というイメージでお使いください。日本のマーケットには必要な性能だと思います。**